

令和三年度 長野市立長野中学校 作文（時間 五十分）

【注意事項】

- 1 「始め」の合図があるまで、中を開いてはいけません。
- 2 作文の問題は、問題冊子の2～3ページに印刷されています。
- 3 問題冊子とは別に、2枚の解答用紙があります。2枚の解答用紙に、受検番号と氏名をまちがいのないように書きなさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙の解答らんらんに書きなさい。なお、解答用紙の※印のあるところには、何も書いてはいけません。
- 5 問題冊子のあいているところは、メモに使ってもかまいません。
- 6 検査が始まってから、印刷がはつきりしないところや、ページが足りないところがあれば、静かに手をあげなさい。
- 7 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 8 まわりの人と話をしたり、用具の貸し借りをしたりしてはいけません。
- 9 解答は、次の指定された字数や条件に従って、たて書きで書きなさい。
 - (1) 文字や数字は1マスに1字ずつ書き、文の終わりには句点（。）を書きなさい。句読点（、。）、や、かぎかっこ（「」）も1字に数え、1マスに1字ずつ書きなさい。
 - (2) 【問】(2)については、段落の最初のマスをあけて書き始めなさい。また、句読点が行の先頭にこないようにしなさい。

(例)

美	
し	冬
く	の
さ	寒
い	さ
た	に
。	た
	え
	た
	梅
	が、

【問】 学まなぶさんたちは、長期休み明けの朝の会で、休みに感じたことや考えたことを発表し合っていたところ、話題の中心は、「学校のよさ」に移っていききました。次の会話を読み、各問いに答えなさい。

【会話文】

学まなぶさん みんなと話をしている、学校のよさを感じるのは、学校だからできることがあるからだと思います。みんなは、どのような時に学校のよさを感じますか。

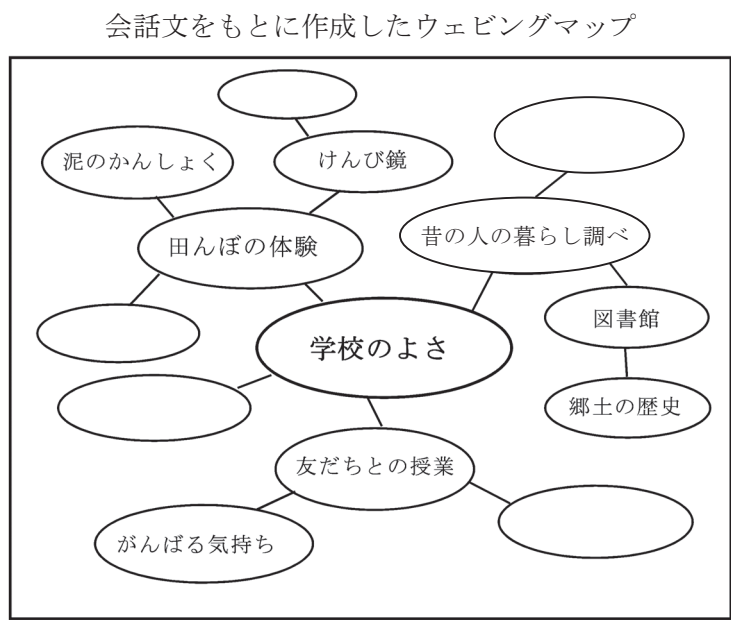
都みやこさん 私は、友だちや先生といっしょに勉強していると「なるほど。よくわかった。楽しかった。」と思うことがたくさんあります。そういう時に、学校のよさを感じます。友だちといっしょに感動したり楽しかったりすることがあると、もっと勉強をがんばりたいという気持ちになります。

豊ゆたかさん ぼくは、五年生の総合的な学習の時間で、田植えをした後に、田んぼにいた小さな生き物を採ってきて、けんび鏡で見る活動をしたことが、とても楽しかったです。ぼくの家には田んぼはないので、田んぼに入ること、学校にある大きなけんび鏡で生き物を見ることが、初めての体験でした。ぬるぬるとした泥どろの感じよくや田植えの後の気持ちのよさ、けんび鏡でミジンコやアオミドロを見たことは忘れられない体験です。こういう体験は、インターネットを見るだけではなかなか味わえないことだと思います。

緑みどりさん 私は、休みに、社会科の授業で昔の人の暮くらしについて勉強したことを思い出しました。昔の人の暮らしについてもっと知りたいと思い、学校の図書館で調べていくうちに、郷土きょうどの歴史にも興味を持つようになり、昼休みにも調べました。そして、学校にある昔の道具を実際にさわったり動かしたりした時は、とても感動しました。このように、学校にはいろいろなことを調べることができる図書館や、実際にふれられる道具などがあり、もっと知りたいとか、やってみたいという気持ちが強くなります。

学まなぶさん ぼくは、みんなの話を聞きながら、休みに自分一人で勉強を進めていた時に、何かもの足りなかった理由が分かってきた気がします。そして、今日聞いた話から、学校のよさについてもう一度考えて、これからの学校生活を大切に過ごしていきたいです。

(1) 左の図は、上の会話文をもとにして作成したウェビングマップです。これを参考にして「学校のよさ」という言葉から、あなたが思いついた言葉をつなげてウェビングマップを作りなさい。その際、思いついた言葉を○で囲み、関係があるもの同士は、線でつなげなさい。言葉はいくつ書いてもかまいません。なお、(2)では、あなたのウェビングマップを参考にして作文を書きます。



ウェビングマップ

中央にある言葉（今回は「学校のよさ」）を中心に、思いついた言葉をつなげていくことで、自分の思考や発想を広げたり、関連付けてまとめたることができる。

(2) あなたが考える「学校のよさと理由」と「そのよさを生かしてどのような中学校生活を送りたいか」を次の条件に従って書きなさい。

【条件】

ア 一行目から本文を書き、三百五十字以上、四百字以内で書く。

イ 一段落目には、あなたが考える学校のよさと理由を、二段落目以降には、そのよさを生かしてどのような中学校生活を送りたいかを書く。

ウ (1)で作成した自分のウェビングマップを参考にして書く。ただし、自分がウェビングマップに書いたすべての言葉を使う必要はない。

エ 書き始めや新しい段落にするときの空白になるマス目も一字に数える。

オ 文末は、「だ・である」か、「です・ます」のどちらかに統一する。

これより先に問題はありません。 次のページに下書き用のマス目があります。

